

シリーズ

「私の森語り」
もりかた森林・林業との関わりの中で、
様々な課題に挑戦されている方
の取組を紹介します。

「命を活用し 皮革製品に」

株式会社 メルセン
代表取締役
中川 武人
なかがわ たけと

■自己紹介

しもいながんまつかわまち

長野県下伊那郡松川町で生まれ育ち、今年で五十年間、皮革業界にかかわりを持ち、現在は皮革産業が後世に続くよう、後継者の育成にも取り組んでいます。

■活動内容

株式会社メルセンは、明治時代よりの皮革製造業者（タンナー）を親会社に持ち、技術の研鑽を重ね、現在の皮革製造及び商品加工を産業としてきました。

「皮」は、そのままでは利用することができません。「皮」を人間が利用できる「革」へと鞣すことが皮革製造業者の仕事です。当社では、鞣した牛革を用いた家具用革・自動車用革の製造を主業務として行っています。

また、牛以外にもワニやサメ、ダチョウ（オーストリッチ）、象など国際法にて利用が認められている「皮」を世界各地から取り寄せ、「革」へと鞣してきました。

宮城県で水揚げされたサメの皮は、以前はゴミとして処分されていましたが、皮革業界もサステイナブルな視点を持ち、捕獲・駆除した動物を有効活用する取組が必要だと感じ、サメ革の商品開発に取り組んできました。

そんな中、地元である長野県では、鹿による森林被害・農林業被害を減らすため、年間三万頭以上

の鹿が捕獲されており、その大半が埋設・焼却処分されていることを知り、鹿も活用しなければならぬと感じると共に、森林の保全に役立つと信じ、鹿皮の製革及びその革を使った商品製造に取り掛かりました。

現在は、長野県を中心に年間五千枚の鹿皮を鞣し、財布やバッグ等に加工しています。

■メッセージ

野生の鹿皮は個体差があり、安定した品質で製造することが難しく鮮度、傷等で歩留も悪く、採算面では厳しい革ですが、柔らかく暖かい手触りを持ち、良質な商品を作製することができます。

牛革より軽くなめらかで、
表面がきめ細かい鹿革

素材の良さを生かした優れた商品を作るよう努力してまいりますので、皮革商品を手に取っていただき、鹿革のすばらしさを感じ取っていただければと思います。



一つひとつ丁寧に作られた皮革商品

○連絡先

〒395-0074

長野県飯田市松川町2211

TEL 0265-5212711

<https://melsen.jp/>